

カンボジアに教育施設



完成した図書館(左)と多目的ホール。子供たちや住民の学びの場として活用されるカンボジアのアンコール・クラウ村



黒田 昭社長

田商会が今

クラウ村は、首都プノンペンから北西へ車で約五時間ほどの所にある。カンボジアでは、子どもたちが十分な教育を受けられる環境が整っていない。同村は電気が通じず、公立学校もない。遺跡修復に取り組むために現地で暮らすうちに、こうした現状を知った中川教授が、子どもの教育などに使う施設整備への協力を、親交のあった黒田社長に求めた。

黒田社長は以前から、社会貢献のための基金を、事業の傍らで積み立ててきた。三

富山の企業が整備

貧困に苦しむカンボジアの子どもたちの学習環境を整えようと、精密機械部品専門商社の三田商会(富山市問屋町)黒田昭社長が、同国のアンコール・クラウ村に図書館や多目的ホールを整備した。両施設には、高岡市中田の善興寺住職、飛鳥寛恵さん(六五)らが、中古オルガンを寄贈することになった。施設整備は、黒田社長が、現地で遺跡修復に当たっている眞出身の中川武早稲田大教授と親交があったことがきっかけ。オルガンの寄贈は、昨年九月十九日の北日本新聞朝刊「こだま」欄の記事で飛鳥さんらがカンボジアに中古オルガンを贈る活動に取り組むことを知った黒田社長が依頼し、飛鳥さんらが応じた。



高岡のオルガンを寄贈

年、創業六十周年を迎えることもあり、記念事業として施設整備を行うことを決めた。図書館と多目的ホールのほか、橋などの建設資金も全額援助した。村民らが昨年九月ごろから、工事に取り掛かり、十一月中旬に完成した。

黒田さんら

家庭などから不用になった足踏み式オルガンを集めてカンボジアに贈る飛鳥さんらの活動について、黒田社長が知ったのは、現地で工事が進んでいた昨年九月のこと。

飛鳥さんと南砺市福野(浦町)の楽器店経営、竹田時康さん(六四)の活動を報じた本紙の記事を読んだ社員から話を聞き、二人にオルガンの寄贈を依頼。飛鳥さんらは、これまでに集まった約四十台のうち二台をクラウ村の図書館とホールに設置することにした。飛鳥さんは「村の子どもたちに、音楽を存分に楽しんでもほしい」と話す。

図書館などのしゅん工式は二月七日に現地で行う。出席を予定している黒田社長は「村の住民が集い、子どもたちが交流して未来を開いていく拠点として活用してほしい」と願っている。